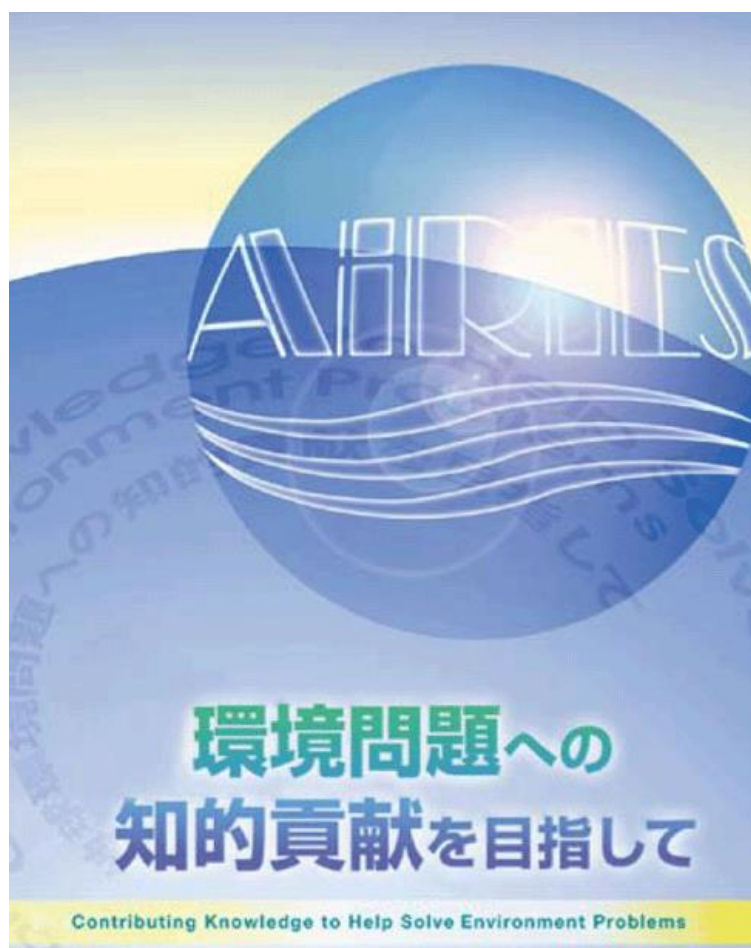


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2021年1月 第295号
新年号



CONTENTS

- 1 新年のご挨拶
- 2 協会業務報告
- 3 業務報告

新年のご挨拶

大塚 柳太郎(国際環境研究協会 会長)

明けましておめでとうございます。令和 3 年、2021 年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は、世界中が COVID-19 (新型コロナウイルス) 感染に翻弄され続ける 1 年でした。それどころか、その脅威は一向に衰えをみせていません。昨年暮れには、イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国や南アフリカ共和国から、感染力を増した変異株の出現が報告され、日本でも二種類の変異株の感染者が確認されました。本年も、ワクチンが期待通りの成果をもたらしてくれるかを含め、予断を許さない状況が続きそうです。

ウイルス学の専門家や生態学の専門家が、パンデミックを引き起こすウイルスの出現が最近 50 年くらいの間に増加していること、その基本的な原因に、野生動物と人間の生息域の境界が曖昧になったことを指摘しています。鳥インフルエンザや豚熱 (CSF および ASF) などの家畜動物のウイルス疾患を含め、自然界におけるウイルスなどの病原体の振る舞いに関する私たちの理解がいかに乏しいかを改めて感じています。

一方で、地球温暖化防止の試金石ともいえるパリ協定については、各国の温室効果ガス排出削減目標を寄せ集めても、気温上昇がパリ協定の目指す 1.5℃あるいは 2℃よりはるかに高い 3℃に達すると予測され、目標の引上げが不可欠なのです。このことを主な議題に予定されていたイギリス・グラスゴーでの第 26 回気候変動枠組条約締約国会議 (COP26) が、COVID-19 のために 1 年間延期されました。この状況の中、国連のグテーレス事務総長は、COVID-19 からの復興において化石燃料を活用する産業への資金援助を止め、脱炭素化を加速す

るよう各国に呼びかけています。

EU や中国を含む多くの国々が、2050 年までにカーボンニュートラル、すなわち温室効果ガス排出実質ゼロを表明しており、日本も新政権が発足した直後の昨年 10 月に温室効果ガスの排出量を 2030 年までに半減し、2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを宣言しました。また、アメリカも政権交代によりパリ協定への復帰が現実味を帯びており、世界が足並みをそろえることへの期待も高まっています。

とはいえ、状況は厳しいままです。大気中二酸化炭素濃度は現在まで、ペースをまったく変えることなく、季節変化を繰り返しながら上昇を続けています。私たちはいつから、二酸化炭素濃度の上昇が目に見える形で遅らせることができるのでしょうか。

当協会の業務も、昨年は COVID-19 感染の影響を受けました。大きな変化は、業務に関わるさまざまな会合を対面ではなくリモートで行うようになったことです。それでも、多くの皆さまのご協力をいただきながら試行錯誤を重ね、環境省からの受託業務である、環境研究総合推進費研究管理・検討委託業務、CO₂ 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業管理・検討等の事業、それにマイクロプラスチックを含む海洋ごみに関する調査業務などを、ほぼ予定通り遂行することができました。

本年も、これらの業務への取り組みを通して、環境研究の科学的・技術的推進に資することを旨とする所存です。また、当協会の出版事業である学会誌については、本年は和文誌と英文誌をそれぞれ 2 号、合わせて 4 号の発行を予定しております。

改めて、当協会に対するご支援とご協力に感謝申し上げますとともに、皆さまの健康と一層のご活躍を祈念いたします。



協会業務報告

徳田博保(専務理事)

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、東京オリンピック一色のはずだったのがコロナ一色になってしまいました。漢字能力検定協会発表の2020年の漢字は「密」でしたし、英語辞書出版社が選んだ2020年の単語は、ウェブスターが「パンデミック」、コリンズが「ロックダウン」、ケンブリッジが「隔離」で、いずれもコロナ関連でした。

1年先の今頃は、ワクチンが効果を発揮しコロナが終息に向かっていて、2021年の単語として「ワクチン」、「終息」などが選ばれているといいですね。

今年はコロナ感染者数が断トツで世界1位のアメリカ(約2千万人、2位はインドで約1千万人)でバイデン大統領が誕生し、コロナ対策に力が入ると思われませんが、気候変動問題に関しても対策の加速化が期待されます。昨年はCOPが開催されなかったものの、主要国がカーボンニュートラルに向けた決意を示してきました。今後は具体化に向けて、数十年先を見据えてどのように進んでいくのか、様々なルートがある中で英知を絞る必要があります。

さて、協会の業務ですが、CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業では、12月上旬に評価委員会が開催され、令和2年度二次公募課題の審査、令和元年度終了課題の事後評価等が行われました。過去に実施された事業のフォローアップ調査も行い、結果を解析中です。令和元年度までは、12月に成果発表会と応募相談会を同日に開催していましたが、令和2年度の成果発表会はWEB上で行います。また、応募相談会は随時相談を受け付け、オンラインで実施してきています。

環境研究総合推進費関係では、追跡評価に係る書面調査、個別ヒアリング調査の結果のとりまとめを行っています。また、1月中旬の制度評価専門部会の準備も進めています。

マイクロプラスチックを含む海洋ごみに関するモニタリング手法の調和等に向けた検討業務では、年末に26か国から約50名の参加を得て国際専門家会合がオンラインで開催され、データベース構築に向けた検討が行われました。今月には、国内専門家会合が開催され、さらに詳細な議論を行った上で、2月に開催される予定の国際専門家会合に向けた準備が行われます。また、年末に相模湾で実施した日本製のニューストーンネット(表層プランクトン等採集用ネット)と中国製のカタマラン(双胴船型)ネットの比較検証調査結果を解析中です。

今月半ばから2か月ほどの間、環境研究総合推進費の企画委員会・制度評価専門部会・追跡評価委員会、CO₂事業の新規案件採択のための評価委員会・分科会、マイクロプラスチック国際専門家会合等の各種会合が目白押しです。

最近では、会場参加の委員とオンライン参加の委員が混在するハイブリッド方式が多くなってきていますが、顔を合わせて議論するとより早く、広く、深く議論が進むような印象があります。実際、次は会場参加すると言っておられた方が何人もおられましたが、昨今のコロナの状況をみると、逆に会場参加者数は激減するかもしれません。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、引き続き、ご指導・ご支援のほど、よろしくお願いたします。



業務日誌



(2020年12月)

12/1(火): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web 会議)

2(水): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

CO2 対策事業フォローアップ調査(Web 会議)

CO2 対策事業 環境省打合せ

3(木): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

マイクロプラ事業 ヒアリング(Web 会議)

4(金): CO2 対策事業 評価委員会を開催(AP 虎ノ門)

マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)

7(月): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

CO2 対策事業 打合せ(山形)

CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

8(火): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

9(水): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web 会議)

CO2 対策事業フォローアップ調査(Web 会議)

10(木): CO2 対策事業フォローアップ調査(Web 会議)

11(金): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

CO2 対策事業フォローアップ調査(Web 会議)

CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)

CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)

14(月): CO2 対策事業 打合せ(協会)

15(火): CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web 会議)

CO2 対策事業 検討会に参加(Web 会議)

16(水): CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web 会議)

17(木): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

18(金): 推進費制度 制度評価 座長説明(Web 会議)

CO2 対策事業 打合せ(環境省)

マイクロプラ事業 国際専門家会合を開催(Web 会議)

21(月): 推進費制度 追跡評価 個別ヒアリング(Web 会議)

23(水): CO2 対策事業 検討会に参加(四日市)

24(木): CO2 対策事業 検討会に参加(福島)

25(金): CO2 対策事業 応募相談会を開催(Web 会議)

28(月): 仕事納め

* 推進費制度: 環境研究総合推進費制度運営・検討業務

CO2 対策事業: CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・
実証事業管理・検討等事業

マイクロプラ事業: マイクロプラスチックのモニタリング手法
に関するデータ整備及び国際連携等に係る検討業務

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL: 03-5812-2105

FAX: 03-5812-2106

E-mail: airies@airies.or.jp

Homepage: <http://www.airies.or.jp>